

はなみずき

川崎市立南管中学校
学校だより
2024年12月20日発行
第8号

「主体的、対話的で深い学び」 校長 野島隆行

11月末になり、学校正門上の土手や坂を上ったところのモミジが鮮やかに紅葉しました。昨年より数日遅い色付きのようでした。今年は11月になっても冷え込む日が少なかったからかもしれません。それでも12月に入ると、さすがに冬の訪れが感じられる季節になり、モミジの落葉が道路を赤くしています。3年生はいよいよ志望校を決定し、1月から2月にかけての入試に臨みます。本校では今のところ感染症の流行はありませんが、体調不良の生徒が増え、インフルエンザの感染者も出てきたようです。油断せず体調管理に気を付け、万全の体制で勉強を進めてほしいと思います。また、1年生は1月13日からのハヶ岳スキー教室に向け、2年生は2月6、7日の職場体験学習に向け、それぞれ準備や事前学習が本格化していきます。日ごろの学校生活とは異なる場所で、いつも以上に自ら考え、判断し、行動する経験を積み、さらなる成長を遂げてほしいと思います。



さて、そうした生徒たちの活動や学校教育についていろいろな見地からご意見をいただき、学校改善を進める第2回学校運営協議会を11月14日に行いました。今回は5校時の授業を参観していただき、生徒たちの授業の取り組みの様子や教員の指導についての感想等もいただきました。その中で、授業については「昔と違って、先生の話を生徒が聞くというのではなく、自分たちで考えたり、班で話し合っている授業が良い。話し合い、教え合いが活発で、だからといって騒がしくはなく落ち着いて取り組んでいる。」や「先生が授業の中で生徒の名前を呼んでほめたり、発言を促していることは生徒にも先生から見られているという安心感をもたらす。また緊張感も持てる。」というようなお話をいただきました。

学習指導要領では「主体的、対話的で深い学び」の実現が求められています。例えば「主体的な学び」は学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間の課題や見通しを持って粘り強く取り組み、またその学習活動を振り返って次につなげる学び。「対話的な学び」は個人で考えたことを意見交換や議論を通じて新たな考えに気づいたり、自己の考えを妥当なものにする学び。「深い学び」は学習内容の中に自ら課題を見出し、それを追究し、解決を行う探究の過程に取り組む学び、などです。また、学習の評価は学力調査や単元テスト、またはレポートなどの成果を学期の終わりにまとめて評価する総括的評価と授業時間ごとの短い時間幅で生徒の様子を観察し、活動や発言内容に対して声かけで評価するというような形成的評価というものもあります。そうした指導技術を高めてより良い授業を行うように教員は努めています。今後の授業参観ではそうしたポイントを見ていただくのもよいと思います。

いよいよ令和6年も残すところあとわずかになりました。保護者、地域の皆様には今年も本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。来年もよろしくお願ひいたします。どうぞ良いお年をお迎えください。

ブロック行事「玉入れ」が開催！

12月4日（水）の生徒集会で、ブロック行事「玉入れ」が開催されました。久しぶりのブロック行事でした。生徒会のみなさんによって工夫されたルールの中、みんな勢いよくブロック色の玉を投げていました。最後のボーナスタイムじゃんけんも、大いに盛り上がりました。笑顔がたくさん見られた良い行事になりました！



小学6年生授業体験が実施されました！

12月10日（火）、来年度入学予定の小学校6年生が教科の授業と部活動を体験するために来校しました。中学校の先生方との対面や、ほかの小学校との合同での体験だったので、最初は緊張している様子でしたが、徐々に打ち解けて、楽しく活動していました。教科の授業では、小学校より専門的になる各教科の魅力を、少し感じる事ができたと思います。部活動体験では、南管中学校の伝統である、「先輩が後輩に優しく指導する」場面がどの部活動にもみられて、みんな楽しそうに体験していました。来年度の入学が楽しみになったのではないのでしょうか。6年生のみなさん、来年度のご入学、お待ちしております！！

